



(議場：表決の様子)

| | |
|----------------|---|
| 条例案に賛成、起立する8議員 | |
| 日本共産党 | 3 |
| 創生静岡 | 4 |
| 緑の党 | 1 |

市議団は住民投票条例制定実現に賛成討論を行い、議員の賛同を求めました。

市民の声を無視した田辺市長 自民・公明・志政会3会派が条例案を否決

街頭での署名訴えに、清水区では毎回100筆を超え、葵区青葉公園前でも列ができました。清水区では4月に衆議院補欠選挙があったことに加え新型コロナウイルスの影響で、実質1カ月の署名活動の中で52,300人の署名数は大変重みのあるものでした。

市議団は住民投票条例制定実現に賛成討論を行い、議員の賛同を求めました。

市議団は、この運動に呼応して2019年12月13日、静岡市の葵区、駿河区でも活動している市民団体や労働組合などとともに「住民投票葵・駿河の会」を結成し、住民投票実現に向けての運動に参加しました。

また、市議会の中で意を同じくする創生静岡と緑の党とも連携し、住民投票求める運動では3会派の野党共闘が実現しました。

このように、市民の意見ができませんでした。「どこで署名できるかわからなくてやっ」と見つけた」と駆けよってくる人など、集める方がびつくりするような光景があちこちでありました。戸別訪問でも、「いつか来ると思って待っていた」など、多くの市民が積極的に応えてくれました。

清水区では4月に衆議院補欠選挙があったことに加え新型コロナウイルスの影響で、実質1カ月の署名活動の中で52,300人の署名数は大変重みのあるものでした。

2カ月間の署名活動で市民の強い思いを実感 市議団も市民と協力して署名を集める

2020年1月23日から2カ月間、直接請求に必要な有権者数の50分の1にあたる11,787人分の4倍を超える52,300人が集まりました。署名は受任者しか集められず、本人直筆、ハンコも必要、こんな面倒な署名がわずか2カ月間で、これだけ多く集まったことは、市民が強く住民投票を求めている証です。

街頭での署名訴えに、清水区では毎回100筆を超え、葵区青葉公園前でも列ができました。清水区では4月に衆議院補欠選挙があったことに加え新型コロナウイルスの影響で、実質1カ月の署名活動の中で52,300人の署名数は大変重みのあるものでした。

調査では移転反対が賛成を上回りました。さらに9月末の朝日テレビ世論調査でも移転建設反対が3区すべてで過半数を超え、住民投票に賛成する世論は6割を超えました。

この世論に対し、9月市議会では、自民・公明・志政会の3会派が、清水庁舎移転建設予算94億円と住所地の条例に賛成し可決、一方、創生静岡が発議した「清水庁舎移転建設の是非を問う住民投票条例(案)」には反対に回りました。

市議団は、市民合意のないまま巨額の市税をつぎ込む清水庁舎移転建設には反対の立場を貫き、住民投票条例案に賛成しました。

このように、市民の意見ができませんでした。「どこで署名できるかわからなくてやっ」と見つけた」と駆けよってくる人など、集める方がびつくりするような光景があちこちでありました。戸別訪問でも、「いつか来ると思って待っていた」など、多くの市民が積極的に応えてくれました。

清水区では4月に衆議院補欠選挙があったことに加え新型コロナウイルスの影響で、実質1カ月の署名活動の中で52,300人の署名数は大変重みのあるものでした。

と市議会の判断が乖離している結果を受け、清水地域の市民団体8団体は、住民投票で清水駅東口公園への移転建設について市民に直接賛否を問うことを決意し、「静岡住民投票の会」を結成しました。

市議団は、この運動に呼応して2019年12月13日、静岡市の葵区、駿河区でも活動している市民団体や労働組合などとともに「住民投票葵・駿河の会」を結成し、住民投票実現に向けての運動に参加しました。

また、市議会の中で意を同じくする創生静岡と緑の党とも連携し、住民投票求める運動では3会派の野党共闘が実現しました。

このように、市民の意見ができませんでした。「どこで署名できるかわからなくてやっ」と見つけた」と駆けよってくる人など、集める方がびつくりするような光景があちこちでありました。戸別訪問でも、「いつか来ると思って待っていた」など、多くの市民が積極的に応えてくれました。

清水区では4月に衆議院補欠選挙があったことに加え新型コロナウイルスの影響で、実質1カ月の署名活動の中で52,300人の署名数は大変重みのあるものでした。

8月臨時議会について 内田隆典議員団長に聞く



8月臨時会(8月3日~7日)では、市民の直接請求に基づき清水庁舎移転計画に関する住民投票の条例制定が議案となりました。田辺市長は、52,300筆の署名に託された市民の声に答えることなく「反対」の意見を付して議会に提案しました。最終的に議案は、自民・公明・志政会の反対で否決され、住民投票条例は成立しませんでした。

そこで、この間、一貫して市長の強引な姿勢を批判してきた日本共産党市議団の内田隆典団長に、臨時議会の状況をお聞きしました。

市長は、住民投票条例案になぜ「反対」の意見を表明したのですか？

内田 市長は、「反対」意見の理由として、①庁舎移転計画については基本的な意思決定の段階から広く市民の意見を反映し市民の意見の集約が十分に図られ、その意見の集約を踏ま

え市議会において意思決定がされている②条例案には投票率や得票率の成立要件が定められていない、の2点をあげました。

本当に市長が言うように、市民の意見が十分集約されてきたのですか？

内田 これについては、この間の経緯から問題点は明らかです。確かに建設検討委員会は2年間にわたり11回、清水まちなかタウンミーティングは8回、2,000人の市民アンケート等は行われました。しかし、建設検討委員会では、「もっと地震問題等を議論したかった」という意見がでるなど津波浸水想定区域への庁舎移転についての検討は不十分でした。また、新清水庁舎建設基本計画(案)に対するパブリックコメントでは828件の意見が出され、その中で一番多かったのは津波浸水想定区域への庁舎移転を疑問視するもので134件にも上りました。

ところで、市は庁舎の移転については、市民の賛否をとったことがあるのですか？

内田 そこが一番の問題です。市長は、いろんな場面で市民の意向は集約してきました。ところが、8月4日の総務委員会での委員(議員)の質問に対し、市当局は、庁舎移転についての市民賛否は一度も確認していないと明言しました。一方、昨年3月行われた市長選挙では田辺市長の得票より、庁舎移転計画に反対した候補(2人)の得票が上回りました。さらに、市長選後に、静岡朝日テレビが行った「庁舎移転についての賛否調査」では、賛成22.7%、反対56.5%でした。加えて住民投票については、実施すべき63.5%、しなくてもいい21.1%との結果が出ています。

市長の説明や市議会の決定は、市民世論と逆行しているように見えますね？

内田 市民の声を聞かずに市長が強引に移転計画を進めてきたことから、今回、直接請求による住民投票条例案の提出になりました。コロナ禍で様々な制約があるなか、短期間で52,300筆の署名が集まりました。このことから、マスコミはじめ各方面から大変注目され

た臨時議会になりました。

住民投票条例案は否決と残念な結果に終わりましたが、臨時議会へは共産党議員団としてどう臨みましたか？また、今後の決意をお聞かせください。

内田 条例案に対して田辺市長が「反対」意見を付議したことから、3日の本会議では杉本議員が質疑を行い、付託された総務委員会では私が賛成の立場から質疑と討論を行いました。7日本会議の議案表決前の討論でも、私が賛成討論を行い、議員の賛同を求めました。また、創生静岡、緑の党も私たち議員団とともに賛成の立場で臨みました。これに対し、庁舎移転に賛成する議員は、住民投票条例案への反対理由を本会議で誰一人討論することなく議案に反対しました。議会の自殺行為であり、大変残念です。

日本共産党市議団は、今後も市民の意向をしっかりと受け止め、市民運動としっかりと連携して議会内外で活動を展開していく決意です。